

MGS無線連絡

三日月3242

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

MGSやったら書きたくなっただけです。

ほら、MGSってネタがめっちゃ多いでしょ？

l
s
t

目
次

1

1st

カズ 「今回の任務はコスタリカ。軍隊を持たない国だ」

スネーク 「そんな平和そうなところにどうして俺がいくんだ？」

カズ 「それはだな…これは最重要任務なんだ」

スネーク 「…(溜息)。どんな危険人物がいるというんだ」

カズ 「いやあ…危険人物はいないんだが…」

スネーク 「？」

カズ 「実は…だな。最近サッカーにはまっていて、選手のサインが欲しいんだ」

スネーク 「はあ？」

カズ 「コスタリカは俺の祖国、日本と同じ軍隊を持たない国。だから興味が湧いて調べてみたんだが…サッカーとはなかなかいいものじゃないか！」

スネーク 「帰投する！」

カズ 「まってくれ！ボス。聞いてくれ。俺は仕事が忙しくコスタリカにはいけない」

スネーク 「テレビでみるなら現地へとべばいい。立場上そのくらいはできるだろう

「？」

カズ 「それは…だな…とにかく、今回の目標はサインだ！期待しているぞ、ボス！」

スネーク 「…カズ」

カズ 「それと…時間が余ったらガジョピントでも食べてくるといいだろう」

スネーク 「…で？」

カズ 「なにが『で？』なんだ？」

スネーク 「味だよ」

カズ 「ガジョピントはコスタリカの伝統的な朝食だ。昔から食べられているとい

うことは相当うまいのだろう！」

スネーク 「そうか…：そうなのか（笑顔）」

カズ 「スネーク、ちよつとうれしそうじゃないか」

スネーク 「わかった。サインだな。なんとかしよう」

カズ 「本当か!? やった！ボス、あなたには感謝しきれないよ！」

スネーク 「おいおい、そこまで喜ぶか？」

カズ 「では検討を祈る！」

スネーク 「その選手はどこに…：きれた…：見つからなかったことにしよう」

カズ 「あー…ボス？これは？」

スネーク 「サインだが？」

カズ 「誰のだ？」

スネーク 「サッカーをやってた人の」

カズ 「…俺はしばらくの間出かけてくる。その間任せたぞ！」

モブ 「イエス、サー！」

スネーク 「？」

モブ 「ボス、それ見せていただけますか？」

スネーク 「(スツ)」

モブ 「なんですか…これ？」

スネーク 「サインだ」

モブ 「公園でサッカーしてたおじさんとかのサインですか？」

スネーク 「レストランに入ってきたサッカーボールをもってた若者のサインだ。聞いたらサッカーについて教えてくれた」

モブ 「そ…そうですか…」

スネーク 「ものすごくうまくいったぞ」

モブ 「そういうことではなくてですね…」

スネーク 「本当のことを言うと、カズはどこにいいのか教えてくれなかった」

モブ 「いつもの任務とおなじように考えてたのではないですかね」

スネーク 「そうかもな…ガジヨピントはうまかったぞ」

モブ 「ボス…」